

宣 誓

本日は大変お忙しい中、新入職員歓迎式を開催して頂きまして、誠にありがとうございます。また、小口理事長はじめ、多くの方々のご臨席を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

本年度は新型コロナウイルスの影響が残る中にもかかわらず、こうして新入職員が一堂に会すことができ、原子力機構の一員として温かく迎えて頂いたこと、心より感謝申し上げます。小口理事長からの温かい励ましのお言葉を頂き、深く感銘を受けますとともに、原子力機構の一員となる実感と責任の重さに身が引き締まる思いです。

昨今の世界情勢によるエネルギー安定確保の課題や、サステナブルな社会への取り組みとして、原子力への期待が高まり再評価されつつあります。原子力の認識が大きく変化する今こそ、まだ多くのポテンシャルを持つ原子力技術のイノベーションやリニューアブルエネルギーの融合といった取り組みの推進に努めることで、将来社会における原子力の新しい在り方の可能性を大幅に広げられると思います。私たちは国内唯一の原子力に関する総合的な研究開発機関の職員として、エネルギー分野だけでなく幅広い分野で、原子力技術への期待に応えるために、常に広い視野で数十年先を見据えて挑戦し続けて参ります。

先月の3月11日で、東日本大震災から12年が経ちました。震災時私は12歳でしたが、福島第一原子力発電所での事故を見て、原子力の危険性に対する不安を少なからず抱きました。ですが、今12歳以下の震災を経験していない次世代の子供たちには、成長する中で原子力の危険性の認識だけではなく、原子力の持つ可能性に胸を躍らせてほしいと願います。そのために、安全確保を徹底し、研究開発で成果をより多く得て世界に発信していくことができるよう、「高い志 豊かな発想 強い意志」を持って尽力してまいります。

本日より私たちは、原子力機構の職員として社会人の第一歩を踏み出します。まだ経験も浅く、先輩職員の皆様にご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、原子力機構のミッション「原子力科学技術を通じて、人類社会の福祉と繁栄に貢献する」。この使命を果たすために、日々精進することをここに誓います。

令和5年4月3日
新入職員代表 鈴木 しほり